



国民の森林・国有林

中部森林管理局

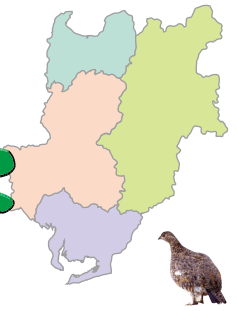
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

http://rinya.maff.go.jp/chubu/

広報

中部の森林



「学校林・遊々の森」全国子供サミット in 信州の様子



広めよう!

森づくりの大切さの輪を全国へ!

(P2に関連記事)

主 な 項 目	○ 学校林・遊々の森等で活動する全国の小学生が松本市に集合!	P2
	○ 信州環境フェア・木曽音楽祭で国際森林年等をPR	P3
	○ 各地からのたより	P4
	○ 風景紀行	P10



オイスカ海外学校林関係者との交流会の様子



緊張しながら精一杯プレゼンを実施



ドバスアートが完成して満足げ

児童達は、高原の清々しい空気を感じながら美ヶ原高原自然保護センターに戻り、各班で「ふりかえり」を行い、自然散策を終りました。この後、昼食を取り、それぞれに別れを惜しみながら美ヶ原高原を後にしました。

なお、次回（平成二十四年度）は、近畿中国森林管理局管内において開催される予定です。

「指導普及課」八月四～五日の二日間、「広めよう！森林づくりの大切さの輪を全国へ！」をテーマに「学校林・遊々の森」全国子どもサミット in 信州を松本市において開催しました。

本サミットは、学校林や遊々の森での自然体験活動の取組を広げていくことを目的として、平成十九年に東京都八王子市で開催したのが始まりで、今回で5回目となる全国子どもサミット in 信州は、林野庁、中部森林管理局をはじめ長野県、松本市及び民間団体（公財）オイスカ、やまぼうし自然学校等）が実行委員会となり準備・開催したものです。

**学校林・遊々の森で活動する
全国の小学生が松本市に集合！**

初日、会場となった松本市浅間文化センターには、全国から二十の小学校の児童や教師の他、スタッフ、協賛企業等の関係者、一般の傍聴者ら約百六十名が参加。冒頭、本サミット実行委員長である小林秀幸氏（オイスカ長野県支部事務局長）が主催者を代表して挨拶し、地元松本市の吉江厚教育長から、歓迎の挨拶がありました。

引き続き、本日のプログラムとして、国際森林年に合わせて、オイスカ職員から海外の森林の現状や環境保全等のプロジェクトの様子が報告され、併せて5グループに分かれて海外の学校林関係者から自国の森林や自然環境の様子についてパソコンを使つての説明があり、児童も熱心に聞き入っていました。

その後、全参加校による、森林体験活動のプレゼンテーションが行われ、児童達はこの日のために練習してきた成果を發揮して、それぞれ工夫をしながら思い思いに活動の様子を伝えていました。

また、会場には、協賛企業による環境保全活動のPRパネルや環境グッズ、海外の児童が描いた絵画が展示され、サミットを盛り上げました。



みんなで一致協力して活動を発表！

発表会終了後、宿泊場所に移動し、全員で夕食をとり、夜の部では、児童らはナイトウォークの他、ドバスアートに挑戦し、教師の方は自然体験や活動における意見交換会に参加するなど、それぞれに交流を深めました。

二日目は、朝からバス三台に分乗して美ヶ原高原に向かい、夏の高原での自然散策を実施しました。



美ヶ原では放牧した牛が出迎えを

初めに、中信森林管理署の担当者より美ヶ原高原の概況やニホンジカによる高山植物の被害及び対策等の説明を受けた後、十班に分かれ局、中信署のインストラクターによる案内で、最も高い王ヶ頭（標高二、〇三四m）と王ヶ鼻を目指して自然散策を行いました。途中、王ヶ頭では霧により視界が不良でしたが、王ヶ鼻に着くころには、霧も晴れ上がり、切り立った断崖の眼下には松本平や遠くは北アルプスの山々も見渡せるようになり、参加した児童や教師の方々も一同に感動した様子でした。

信州環境フェア2011でのPR活動について

「企画調整室」 八月二十日、二十一日に開催された信州環境フェア（信州環境フェア実行委員会主催）に、長野林政協議会（長野県林務部・中部森林管理局）の取組として参加し、民有林と国有林の連携による森林づくり、地球温暖化防止対策、国際森林年等をPRしました。



森林クイズに答えてすてきなプレゼントをもらおう

を推進し、持続可能な社会を構築する契機とすることを目的としたものです。今年で十一回目の開催となり、会場となった長野市ビッグハットには二日間であ約一万一千人が来場されました。

今年の長野林政協議会のブースでは、昨年に引き続きゴルフボールを落としてコンクリート・鉄・木材の堅さの違いを観察するコーナーや、モモやプルーンなど実のなる木を削って作った手のひらサイズの工作物を手にとってもらい木のぬくもりを感じてもらおうコーナー、カラマツブロックで遊んでもらうコーナーなどを設けました。

子供連れの家族を中心に沢山の方々に実際に触れたり感じたりすることで五感に訴えることができたと思います。また、森林の働きなどを紹介するパネルを展示しましたが、より興味を持っていただくためにパネルの内容をふまえたクイズも行いました。「長野県の森林面積は全国で何番目でしょうか」、「今年国際森林年ですが日本でのメインテーマは何でしょうか」など、ちよつと頭をひねる問題に大人から子供まで楽しく取組んでいただけでした。

今後地球温暖化防止のための間伐の推進や木材利用など民有林と国有林の取組や連携について関心を持っていただけるよう長野県の協力のもと積極的に活動していくこととしています。

木曽音楽祭で国際森林年をPR

「総務課」 八月二十六日から二十八日まで長野県木曽町で開催されたクラシック音楽のイベント「木曽音楽祭」（木曽音楽祭実行委員会主催）の会場において、中部森林管理局より国際森林年のPR資料や「木曽式伐木運材図会」の写真パネルなどを展示しました。

「木曽式伐木運材図会」はわが国の代表的な林業地として知られた木曽地方や飛騨地方において、江戸時代から大正時代頃まで行われていた伐木・運材の様子を描写した絵巻であり、現在中部森林管理局で保管しています。



音楽祭の開催前のアトラクション（背景に写真パネルを展示）

木曽音楽祭では、毎年コンサートチケットのデザインとして「木曽式伐木運材図会」からのカットが使用されており、こうしたご縁から、今年も主催者のご厚意によりコンサート会場ロビーに当局からの展示スペースを設けさせていただきました。

会場を訪れた方々は、開演前の待ち時間などに展示スペースに足を止め、いにしへの林業の様子が描かれたパネルや国際森林年の資料を興味深そうにご覧になっていました。

クラシック音楽のイベント会場での展示ということで、一風変わった取り組みでしたが、国際森林年の意義や、古くから木曽山で営まれてきた林業に対する理解の醸成に資することができたものと考えています。



興味深そうに展示をご覧になる皆さん

各地からのたより

軽井沢国際森林年記念

シンポジウム

〔東信署〕 当署では、国際森林年に因み、軽井沢国際森林年記念事業実行委員会（軽井沢野生動物問題研究会クロス、東信森林管理署）主催による「軽井沢国際森林年記念事業」を行っています。

この事業の一つとして、八月二十一日（日）、軽井沢町中央公民館大講堂において、「国際森林年を機に我々は森林とどうつきあうのか～軽井沢からの提言～」をテーマに、軽井沢国際森林年記念シンポジウムを開催しました。



シンポジウムの様子

シンポジウムの第一部では、東京大学鬼頭秀一氏による「森林と人の関係を探る」、速水林業速水亨氏による「美しい人工林を育てる」、NPOやまぼうし自然学校加々美貴代氏による「思いを形に」の講演を行いました。

鬼頭氏からは、森林経営が難しい現状の中で、当事者の楽しみや情熱に基づく「遊び仕事」を通じて自然を維持する必要性について学術的な話がされ、また速水氏からは、世界的、歴史的視野からの林業や木材利用の現状に触れながら、手入れの行き届いた美しい人工林経営の実績や、森林認証の取組など実践的な話があり、さらに加々美氏からは、やまぼうし自然学校を導き築いてきた思いとそれを支えてきた人間関係のほか、自然体験活動の取組状況について紹介され、理論と実践が噛み合った講演となりました。

第二部では、講演いただいた三氏に軽井沢町長藤巻進氏が加わって、成城大学打越綾子氏をコーディネーターとしてパネルディスカッションを行い、聴講者から回収した質問等を中心に活発な議論が交わされました。

会場内では協賛団体のパネル展示も行い、百五十人を超える参加者からは、「自然に関わる事の大切さを理解した」、「人工林を見直した」、「国産の木材を使わなければ」といった感想や、「このような取組を続けてほしい」といった声が寄せられました。

自然観察ツアーを開催

〔東信署〕 八月二十七日（土）、軽井沢国際森林年記念事業のイベントの一つとして自然観察ツアー「軽井沢と草津をつなぐ」を行いました。

同事業の中では、三回の自然観察ツアーを計画しており、今回は、六月十二日（日）に行った「カラマツの新緑を楽しむ」に続く第二回目の開催となり、約八十名が参加しました。



ツアーに参加された皆様

午前中は小浅間山の登山を行い、浅間山を中心とする火山地形や自然環境を観察しながら歩きました。途中、浅間山の火山活動の歴史が観察できる断層地形で説明を受けた参加者は、天明三年の大噴火による一辺を超える堆積物を目の当たりにして噴火規模の大きさに驚いていました。

午後からは、かつて軽井沢と群馬県草津をつないでいた草軽電鉄の軌道跡を辿りながら、時速十五キロメートルでゆつくりと走っていた小型電気機関車にまつわるエピソードを交えた説明を聞きながら、当時使われていた枕木、電柱、橋梁跡などを探訪し、歴史と自然にふれるツアーを楽しんでいました。

伝統工芸継承に向け森林整備

～「南木曾伝統工芸の森」で汗を流す～

〔南木曾支署〕 八月三日、「南木曾伝統工芸の森」（南蘭国有林六〇九林班）において、「南木曾伝統工芸の森育成協議会（以下協議会）」の構成員である南木曾ろくろ工芸協同組合、蘭松笠生産協同組合の他、名古屋シテイ・フォレスト隊員十七名、蘇南高校の生徒三名の計二十八名が森林整備作業（下刈等）に汗を流しました。

「南木曾伝統工芸の森」は、南木曾町の工芸品であるろくろ細工や松笠、サワラ桶の関係者からなる南木曾伝統工芸の



地元蘇南高校の生徒も作業に参加



草刈作業をする参加者

森育成協議会と当支署の間において、森林整備を通じて、木の文化の継承を目的に、平成十八年に協定を締結し、以降毎年森林整備を実施しています。当日は、草刈作業及び生育に支障とな

るハンノキの伐採に汗を流し、参加者からは「木々の生長が楽しみ」「地元で使う木を後継者に残す取り組みなので、長い目で見て行いたい」など感想が聞かれました。初めて参加した蘇南高校の生徒は当支署職員及び古屋シテイ・フォレスト隊員の指導を受け、下刈及び除伐作業に汗を流していました。今回、作業をした森が南木曽ろくろ細工等の伝統工芸品の材料として利用できるまで百年から二百年の長い年月を必要とします。

今後も協議会及び地域だけではなく、将来を担う子供たちや下流域のボランティアの力を借りながら幅広い取組を進め、「木の文化を支える森づくり」について情報発信していくこととしています。

シリーズ 現場最前線

安全で効率の良い業務に努める

木曽森林管理署開田森林事務所班

当事務所の国有林は御岳山東側山麓一帯及び開田高原の中央を流れる西野川及び末川上流に位置しており、大部分が木曾川支流の源流部となっています。

開田高原（旧開田村）は標高が高く、木曾町開田支所の標高は一、一〇〇メートル



林道刈払いの様子

あり、高原野菜（特にとうもろこし、白菜）の生産が盛んです。御岳山東側山麓の新高国有林の標高の高い箇所には、木曾谷ではめずらしいコメツガ、シラベ、アオモリトドマツなど亜高山性の成熟した森林が育成されています。

また、山麓の森林については、スキーなどの野外スポーツをする場（開田高原マイアスキー場）としてレクリエーションの森に指定されており、隣接する開田高原保健休養地とともに開田高原におけるレクリエーション施設の一画を形成しています。

当事務所の現場班は基幹作業職員四名と臨時作業員（OB）一名の合計五名で、除伐二類、枝打ち、つる切り、歩道

修理、境界巡検、林道維持修繕など、幅広く作業を行っています。

現場作業にあたっては、毎朝班長とその日の天候や作業内容に応じた安全作業の確認等ミーティングを行い、安全で効率的な業務に努めています。

国有林の山造りに対しては、「この山はもう枝打ちをした方がよい」等森林官が聞く前にこうしたいとの要望が出るほど、作業班全体が熱意と誇りをもって取り組んでいます。

現場は四月下旬まで降雪があるほど標高が高く、寒いところですが、今後とも班長を中心としたミーティングや毎月の安全懇談会を大事にして、無災害で健康で明るい職場環境づくりに努めていきたいと思ひます。

行事・協議会の予定

◎国有林野事業労働衛生週間

10月1～7日

◎森・ふれあいフェスタ

10月1日 松本市

◎名古屋シテイ・フォレスト事業

10月13日 愛知所管内

10月21日 飛騨署管内

10月29日 愛知所管内

◎親子の森林体験教室

10月15日 北信署管内

◎森林ふれあい講座

10月15日 愛知所管内